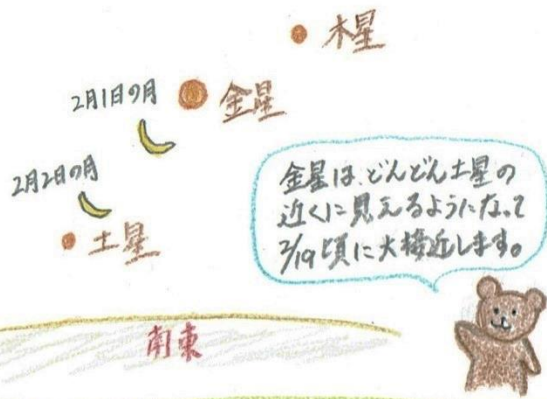


## 東・朝方の空

木・金・土が並ぶ。1日、2日は、細い月も見られるかも。

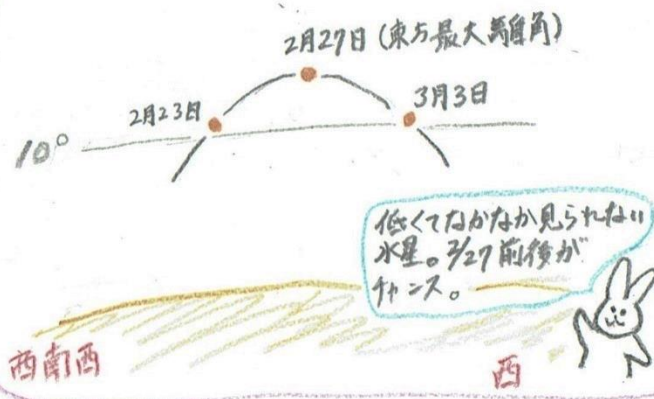
2月上旬の空。日の出1時間前。



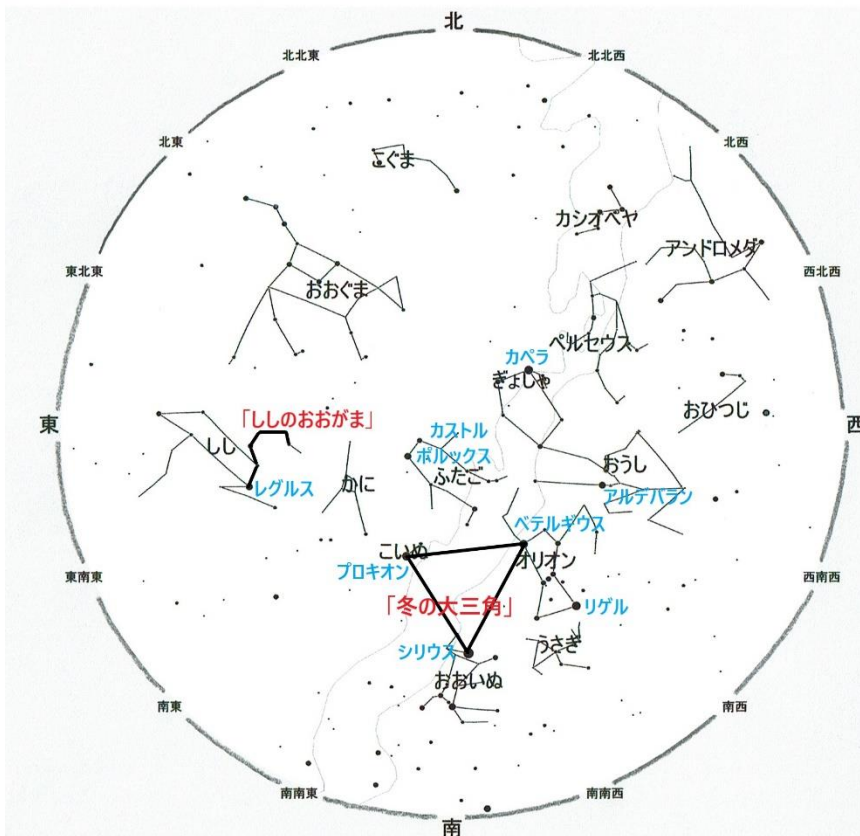
## 西・夕方の空

コペルニクスも見られなかった? かも  
しれない水星が2月下旬に見ごろ。

日の入り30分後。



## 2月15日 21時ごろの空



2月4日は立春。春の始まる頃でもありますが、まだまだ寒い季節です。氷のように鋭く煌めく冬の星座たちが、まだまだ似合う夜空です。

リボンのような形のオリオン座は、冬の夜空の良い目印になってくれます。赤い色のベテルギウス、青白い色のリゲル、ふたつの1等星が輝いています。オリオン座の少し左側には、2つの明るい星が見えています。低いところにひときわ明るく輝くのは、おおいぬ座のシリウス。高いところの星は、こいぬ座のプロキオン。ベテルギウスとシリウス、プロキオンを結ぶ形は、「冬の大三角」と呼ばれています。オリオン座のまわりには、他にもおうし座のアルデバラン、ぎよしゃ座のカペラ、ふたご座のカストル、ポルックスといった明るい星が見えるので、みつけてみてくださいね。

明るい冬の星座たちを追って、東の空からは、春の星座も顔を出してきています。「？」を裏返したような形は、春の星座、しし座の頭。「？」の一番下の星には、「小さな王さま」という意味のレグルスという名前があります。